

## 第二級海上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法 規 12問 } 24問 1時間  
無線工学 12問

### 法 規

〔1〕 無線局の免許人は、無線設備の設置場所を変更しようとするときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 あらかじめ総務大臣の指示を受ける。
- 2 あらかじめ総務大臣の許可を受ける。
- 3 遅滞なく、その旨を総務大臣に届け出る。
- 4 変更の期日を総務大臣に届け出る。

〔2〕 次の記述は、「レーダー」の定義である。電波法施行規則の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「レーダー」とは、決定しようとする位置から反射され、又は再発射される無線信号と  との比較を基礎とする無線測位の設備をいう。

- 1 基準信号
- 2 標識信号
- 3 同期信号
- 4 応答信号

〔3〕 第二級海上特殊無線技士の資格を有する者が、船舶局の25,010kHz以上の周波数の電波を使用する無線電話の国内通信のための通信操作を行うことができるのは、空中線電力何ワット以下のものか。次のうちから選べ。

- 1 5ワット
- 2 10ワット
- 3 50ワット
- 4 100ワット

〔4〕 無線局の免許人は、電波法又は電波法に基づく命令の規定に違反して運用した無線局を認めたときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 その無線局の免許人を告発する。
- 2 その無線局の電波の発射を停止させる。
- 3 その無線局の免許人にその旨を通知する。
- 4 総務省令で定める手続により、総務大臣に報告する。

〔5〕 総務大臣が無線局に対して臨時に電波の発射の停止を命ずることができるのはどの場合か。次のうちから選べ。

- 1 無線局が免許状に記載された空中線電力の範囲を超えて運用していると認めるとき。
- 2 運用の停止を命じた無線局を運用していると認めるとき。
- 3 無線局の発射する電波が他の無線局の通信に混信を与えていると認めるとき。
- 4 無線局の発射する電波の質が総務省令で定めるものに適合していないと認めるとき。

〔6〕 船舶局の免許状は、掲示を困難とするものを除き、どの箇所に掲げておかなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所
- 2 受信装置のある場所の見やすい箇所
- 3 航海船橋の適宜な箇所
- 4 船内の適宜な箇所

## 第二級海上特殊無線技士試験問題

### 法 規

〔7〕 船舶局の遭難呼出し及び遭難通報の送信は、海岸局又は他の船舶局から応答があるまでどうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 他の通信に混信を与えるおそれがある場合を除き、反復を継続する。
- 2 少なくとも3分間の間隔をおいて反復する。
- 3 少なくとも5回反復する。
- 4 応答があるまで、必要な間隔をおいて反復する。

〔8〕 無線電話通信において、応答に際して直ちに通報を受信することができない事由があるときに応答事項の次に送信することになっている事項はどれか。次のうちから選べ。

- 1 「どうぞ」及び分で表す概略の待つべき時間
- 2 「どうぞ」及び通報を受信することができない理由
- 3 「お待ちください」及び分で表す概略の待つべき時間
- 4 「お待ちください」及び通報を受信することができない理由

〔9〕 無線局は、遭難通信等を行う場合を除き、相手局を呼び出そうとするときは、電波を発射する前に、どの電波の周波数を聴守しなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 自局の発射しようとする電波の周波数その他必要と認める周波数
- 2 他の既に行われている通信に使用されている電波の周波数であって、最も感度の良いもの
- 3 自局の付近にある無線局において使用している電波の周波数
- 4 自局に指定されているすべての周波数

〔10〕 無線電話通信における遭難通信の通報の送信速度は、どのようなものでなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 できるだけ速いもの
- 2 緊急の度合いに応じたもの
- 3 受信者が筆記できる程度のもの
- 4 送信者の技量に応じたもの

〔11〕 156.8MHzの周波数の電波を使用することができないのはどの場合か。次のうちから選べ。

- 1 遭難通信を行う場合
- 2 安全通信（安全呼出しを除く。）を行う場合
- 3 緊急通信（医事通報に係るものにあつては、緊急呼出しに限る。）を行う場合
- 4 呼出し又は応答を行う場合

〔12〕 船舶局は、安全信号を受信したときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 その通信が自局に関係のないことを確認するまでその安全通信を受信する。
- 2 その通信が自局に関係がないものであってもその安全通信が終了するまで受信する。
- 3 できる限りその安全通信が終了するまで受信する。
- 4 少なくとも2分間はその安全通信を受信する。